



WindowsでのUnified Managerソフトウェアのインストール、ア ップグレード、削除

OnCommand Unified Manager 9.5

NetApp
October 23, 2024

目次

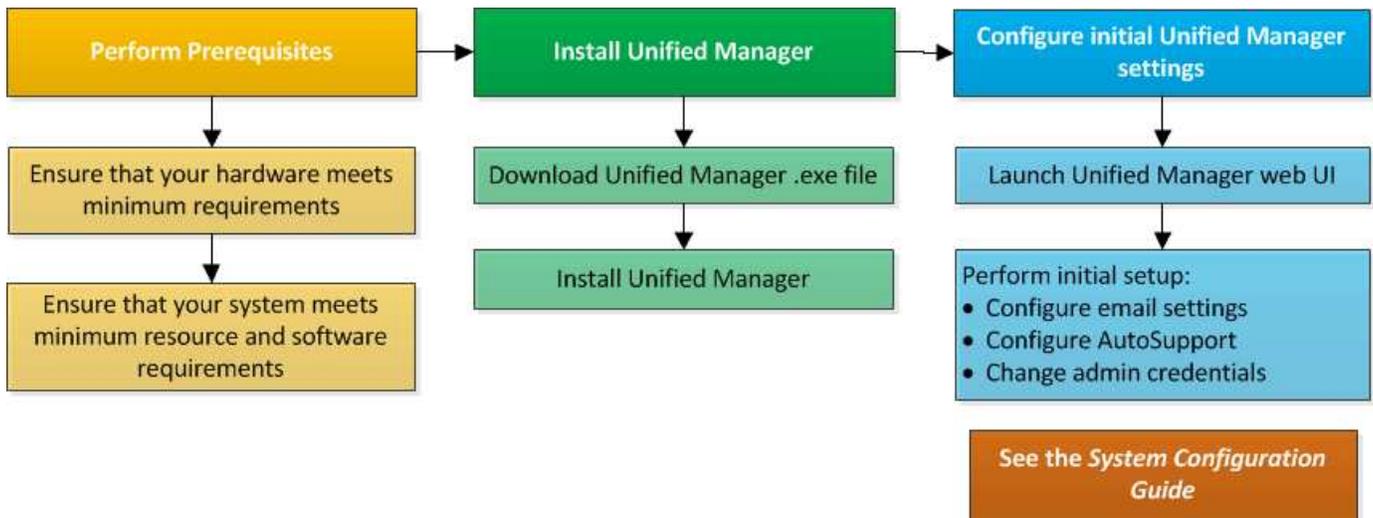
WindowsでのUnified Managerソフトウェアのインストール、アップグレード、削除	1
Windowsでのインストールプロセスの概要	1
Windows への Unified Manager のインストール	1
フェイルオーバークラスタリング環境でのUnified Managerのセットアップ	5
WindowsでのUnified Managerのアップグレード	8
Windowsでのサードパーティ製品のアップグレード	10
WindowsでのUnified Managerの再起動	11
WindowsからUnified Managerをアンインストールします	12

WindowsでのUnified Managerソフトウェアのインストール、アップグレード、削除

Windowsシステムで、Unified Managerソフトウェアのインストール、新しいバージョンへのアップグレード、またはUnified Managerアプリケーションの削除を実行できます。

Windowsでのインストールプロセスの概要

以下は、Unified Manager を使用する前に必要なインストール作業のワークフローです。



Windows への Unified Manager のインストール

Windows で Unified Manager をダウンロードしてインストールする一連の手順を理解することが重要です。WindowsにUnified Managerをインストールする前に、Unified Managerをハイアベイラビリティ構成にするかどうかを決めておきます。

WindowsシステムへのUnified Managerのインストール

Unified ManagerをWindowsにインストールすることで、データストレージの容量、可用性、パフォーマンス、保護の問題を監視してトラブルシューティングすることができます。

作業を開始する前に

- Unified Managerをインストールするシステムがシステムおよびソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

[ハードウェアシステムの要件](#)

[Windows ソフトウェアとインストールの要件](#)



Unified Manager 9.5 以降、OpenJDK は Unified Manager のインストールパッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5 以降では Oracle Java はサポートされません。

- Windows の管理者権限が必要です。
- サポートされている Web ブラウザが必要です。
- Unified Managerのメンテナンスユーザのパスワードは8~20文字で指定し、アルファベットの大文字または小文字、数字、および特殊文字を含める必要があります。
- メンテナンスユーザまたはMySQLのrootユーザのパスワードに次の特殊文字は使用できません。""%、=<>|^V () [];

次の特殊文字を使用できます。~ !@#\$*-?.: + {}

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントで Windows にログインします。
2. NetApp Support Site にログインし、Windowsプラットフォーム向けのUnified Managerのダウンロードページに移動します。

"ネットアップのダウンロード：ソフトウェア"

3. Unified Manager WindowsインストールファイルをNetApp Support Site からWindowsシステムのターゲットディレクトリにダウンロードします。
4. インストールファイルが保存されているディレクトリに移動します。
5. Unified Managerインストーラの実行ファイルを右クリックして実行します (.exe)ファイルを管理者として指定します。

Unified Manager により、不足しているサードパーティパッケージとインストールされているパッケージが検出されて表示されます。必要なサードパーティパッケージがシステムにインストールされていない場合、Unified Manager のインストール時にインストールされます。

6. 「* 次へ *」をクリックします。
7. ユーザ名とパスワードを入力してメンテナンスユーザを作成します。
8. データベース接続*ウィザードで、MySQLのrootパスワードを入力します。
9. [* 変更 *]をクリックして、Unified Manager のインストールディレクトリと MySQL のデータディレクトリの新しい場所を指定します。

インストールディレクトリを変更しない場合は、デフォルトのインストールディレクトリに Unified Manager がインストールされます。

10. 「* 次へ *」をクリックします。
11. [Ready to Install Shield* (シールドのインストール準備完了)]ウィザードで、[* Install (インストール)]をクリックします。
12. インストールが完了したら、「* 完了 *」をクリックします。

結果

インストールによって、複数のディレクトリが作成されます。

- インストールディレクトリ

インストール時に指定した Unified Manager のルートディレクトリです。例 C:\Program Files\NetApp\
Files\NetApp\

- MySQL データディレクトリ

インストール時に指定した MySQL データベースの格納先ディレクトリです。例
C:\ProgramData\MySQL\MySQLServerData\

- Java ディレクトリ

OpenJDKがインストールされるディレクトリです。例 C:\Program Files\NetApp\JDK\

- Unified Manager のアプリケーションデータディレクトリ (appDataDir)

アプリケーションで生成されるすべてのデータが格納されるディレクトリです。ログ、サポートバンドル、バックアップなど、その他のすべてのデータが含まれます。例
C:\ProgramData\NetApp\OnCommandAppData\

完了後

Web UIにアクセスしてUnified Managerの初期セットアップを実行できます。手順については、[を参照してください](#) "Unified Managerを設定しています"。

Unified Manager の無人インストールを実行する

コマンドラインインターフェイスを使用して、手動操作なしで Unified Manager をインストールできます。無人インストールを実行するには、キーと値のペアの形式でパラメータを渡します。

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントで Windows のコマンドラインインターフェイスにログインします。
2. Unified Manager をインストールする場所に移動し、次のいずれかを実行します。

オプション	手順
サードパーティパッケージが事前にインストールされている場合	<pre>OnCommandUnifiedManager-x.y.exe /V"MYSQL_PASSWORD=mysql_password INSTALLDIR="Installation directory\" MYSQL_DATA_DIR="MySQL data directory\" MAINTENANCE_PASSWORD=maintenance_passw ord MAINTENANCE_USERNAME=maintenance_usern ame /qn /l*v CompletePathForLogFile"</pre> <p>• 例：*</p> <pre>OnCommandUnifiedManager.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=netapp21! INSTALLDIR="C:\Program Files\NetApp\" MYSQL_DATA_DIR="C:\ProgramData\MySQL\ MySQLServer\" MAINTENANCE_PASSWORD=* MAINTENANCE_USERNAME=admin /qn /l*v C:\install.log"</pre>
サードパーティパッケージがインストールされていない場合	<pre>OnCommandUnifiedManager-x.y.exe /V"MYSQL_PASSWORD=mysql_password INSTALLDIR="Installation directory\" MYSQL_DATA_DIR="MySQL data directory\" MAINTENANCE_PASSWORD=maintenance_passw ord MAINTENANCE_USERNAME=maintenance_usern ame /qr /l*v CompletePathForLogFile"</pre> <p>• 例：*</p> <pre>OnCommandUnifiedManager.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=netapp21! INSTALLDIR="C:\Program Files\NetApp\" MYSQL_DATA_DIR="C:\ProgramData\MySQL\ MySQLServer\" MAINTENANCE_PASSWORD=* MAINTENANCE_USERNAME=admin /qr /l*v C:\install.log"</pre>

。 /qr オプションを指定すると、ユーザインターフェイスが減少してQuietモードが有効になりますインストールの進捗を示す基本的なユーザインターフェイスが表示されません。入力を求められることはありません。JRE、MySQL、7zipなどのサードパーティパッケージが事前にインストールされていない場合は、を使用する必要があります /qr オプションがの場合、のインストールは失敗します /qn オプションは、サードパーティパッケージがインストールされていないサーバで使用します。

。 /qn オプションを指定すると、ユーザインターフェイスのないQuietモードが有効になりますインストール中にユーザインターフェイスや詳細は表示されません。を使用しないでください /qn オプション：サードパーティパッケージがインストールされていない場合。

3. 次の URL を使用して Unified Manager Web ユーザーインターフェイスにログインします。

https://IP address

フェイルオーバークラスタリング環境でのUnified Managerのセットアップ

フェイルオーバークラスタリングを使用してUnified Managerをハイアベイラビリティ構成にすることができます。ハイアベイラビリティ構成にするとフェイルオーバー機能を利用できます。

この構成では、1つのノードがすべてのクラスタリソースを所有します。一方のノードが停止した場合や、設定されているいずれかのサービスがオンラインにならない場合、そのことがフェイルオーバークラスタサービスによって検知され、もう一方のノードにただちに制御が切り替えられます。2つ目のノードがアクティブになり、サービスの提供を開始します。フェイルオーバープロセスは自動で実行されるため、手動の操作は必要ありません。

Unified Managerサーバで設定したフェイルオーバークラスタは2つのノードで構成され、各ノードで同じバージョンのUnified Managerサーバが実行されます。Unified Managerサーバのすべてのデータに共有データディスクからアクセスできるように設定する必要があります。

フェイルオーバークラスタリング環境でのUnified Managerの要件

フェイルオーバークラスタリング環境でUnified Managerをインストールする場合は、クラスタノードがUnified Managerをサポートするように適切に設定されていることを事前に確認する必要があります。

フェイルオーバークラスタの構成が次の要件を満たしていることを確認する必要があります。

- 両方のクラスタノードで同じバージョンのMicrosoft Windows Serverが実行されている必要があります。
- 両方のクラスタノードで同じバージョンのUnified Managerが同じパスにインストールされている必要があります。
- 両方のノードにフェイルオーバークラスタリングがインストールされて有効になっている必要があります。

手順については、Microsoftのドキュメントを参照してください。

- Fibre ChannelスイッチファブリックまたはiSCSIベースのストレージを使用して、共有データディスクをストレージバックエンドとして作成しておく必要があります
- オプション：SnapDrive for Windowsを使用して、ハイアベイラビリティ構成の両方のノードからアクセスできる共有の場所を作成する必要があります。

共有の場所のインストールと作成については、SnapDrive for Windowsインストールガイドを参照してください。

ストレージシステムのコマンドラインインターフェイスを使用してLUNを管理することもできます。詳細については、SnapDrive for Windowsの互換性マトリックスを参照してください。

- Perlをにインストールしておく必要があります XML::LibXML および File::chdir スクリプトが機能するためのモジュール。
- クラスタセットアップのノードは2つだけにする必要があります。
- フェイルオーバー・クラスタリングには'ノードとディスク・マジョリティクォラム・タイプを使用する必要があります
- Unified Managerへのアクセスにクラスタで使用するグローバルIPアドレスとして、共有IPアドレスと対応するFQDNを設定しておく必要があります。
- Unified Managerのメンテナンスユーザのパスワードを両方のノードで同じにする必要があります。
- IPv4 IPアドレスのみを使用する必要があります。

MSCSにUnified Managerをインストールします

ハイアベイラビリティ構成にするには、Microsoft Cluster Server (MSCS) の両方のクラスタノードにUnified Managerをインストールする必要があります。

手順

1. クラスタの両方のノードにドメインユーザとしてログインします。
2. 次のいずれかを実行してハイアベイラビリティを設定します。

状況	操作
既存のUnified Managerインストールでハイアベイラビリティを設定する	<p>既存のサーバとペアリングするサーバを追加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. 既存のUnified Managerサーバのソフトウェアを最新バージョンにアップグレードします。 b. 既存のUnified Managerインストールのバックアップを作成し、マウントされたLUNに格納します。 c. 2つ目のノードにUnified Managerをインストールします。 <p>WindowsシステムへのUnified Managerのインストール</p> <ol style="list-style-type: none"> d. 既存のUnified Managerインストールのバックアップを2つ目のノードにリストアします。
新しいUnified Manager環境でハイアベイラビリティを設定する	<p>両方のノードにUnified Managerをインストールします。 WindowsシステムへのUnified Managerのインストール</p>

設定スクリプトを使用したMSCSでのUnified Managerサーバの設定

両方のクラスタノードにUnified Managerをインストールしたら、フェイルオーバークラ

スタマネージャで設定スクリプトを使用してUnified Managerを設定できます。

作業を開始する前に

ソースのUnified Managerのデータを十分に格納できる共有のLUNを作成しておく必要があります。

手順

1. クラスタの1つ目のノードにログインします。
2. フェイルオーバークラスタマネージャを使用して、Windows Server 2012またはWindows Server 2016にロールを作成します。
 - a. フェイルオーバークラスタマネージャを起動します。
 - b. [役割>]>[空の役割の作成]をクリックして、空の役割を作成します。
 - c. 役割にグローバルIPアドレスを追加するには、役割>*リソースの追加*>*その他のリソース*>* IPアドレス*を右クリックします。



ハイアベイラビリティの構成後はこのIPアドレスを使用してUnified Managerを起動するため、このIPアドレスに両方のノードからpingを実行できる必要があります。

- d. 役割にデータディスクを追加するには、役割>*ストレージの追加*を右クリックします。
3. を実行します `ha_setup.pl` 最初のノードでのスクリプト：`perl ha_setup.pl --first -t mscs -g group_name -i ip address -n fully_qualified_domain_cluster_name -f shared_location_path -k data_disk -u user_name -p password`

```
C:\Program Files\NetApp\ocum\bin>perl .\ha_setup.pl --first -t mscs -g umgroup
-i "IP Address" -n spr38457002.eng.company.com -k "Cluster Disk 2" -f E:\ -u
admin -p wx17yz
```

このスクリプトにはあります `Install_Dir\NetApp\ocum\bin`

- の値を取得できます `-g`、`-k` および `-i` を使用したオプション `cluster res` コマンドを実行します
 - `-n` オプションには、両方のノードからpingを実行できるグローバルIPアドレスのFQDNを指定する必要があります。
4. フェイルオーバークラスタマネージャのWebコンソールを使用して、Unified Managerサーバサービス、データディスク、およびクラスタのIPアドレスがクラスタグループに追加されたことを確認します。
 5. を使用して、すべてのUnified Managerサーバサービス（MySQL、ocie、およびocieau）を停止します `services.msc` コマンドを実行します
 6. フェイルオーバークラスタマネージャで、サービスグループを2つ目のノードに切り替えます。
 7. コマンドを実行します `perl ha_setup.pl --join -t mscs -f`shared_location_path` クラスタの2つ目のノードで、Unified ManagerサーバのデータがLUNをポイントするように設定します。

```
perl ha_setup.pl --join -t mscs -f E:\
```

8. フェイルオーバークラスタマネージャを使用して、すべてのUnified Managerサービスをオンラインにします。

9. Microsoft Cluster Serverのもう一方のノードに手動で切り替えます。
10. クラスタのもう一方のノードでUnified Managerサーバサービスが開始していることを確認します。
11. 設定スクリプトの実行後、Unified Managerの証明書を再生成し、グローバルIPアドレスを取得します。
 - a. ツールバーで、をクリックします  *をクリックし、*設定*メニューから HTTPS証明書*をクリックします。
 - b. [* HTTPS 証明書の再生成 *] をクリックします。再生成した証明書にはクラスタのIPアドレスが含まれ、完全修飾ドメイン名 (FQDN) は含まれません。Unified Managerのハイアベイラビリティの構成には、グローバルIPアドレスを使用する必要があります。
12. 次のコマンドを使用してUnified Manager UIにアクセスします。 <https://<FQDN of Global IP>>

完了後

ハイアベイラビリティの構成が完了したら、バックアップの共有の場所を作成する必要があります。共有の場所は、フェイルオーバーの前後に作成するバックアップを格納するために必要です。ハイアベイラビリティ構成の両方のノードからアクセスできる必要があります。

WindowsでのUnified Managerのアップグレード

WindowsプラットフォームでUnified Manager 7.3または9.4からUnified Manager 9.5にアップグレードするには、インストールファイルをダウンロードして実行します。

作業を開始する前に

- Unified Manager をアップグレードするシステムがシステム要件とソフトウェア要件を満たしている必要があります。

ハードウェアシステムの要件

Windows ソフトウェアとインストールの要件



Unified Manager 9.5 以降、OpenJDK は Unified Manager のインストールパッケージに含まれており、自動的にインストールされます。Unified Manager 9.5 以降では Oracle Java はサポートされません。



Unified Manager 9.4以降では、Microsoft .NET 4.5.2以上が必要です。アップグレードを開始する前に、正しいバージョンの.NETがインストールされていることを確認してください。

- Windows の管理者権限が必要です。
- NetApp Support Siteにログインするための有効なクレデンシャルが必要です。
- アップグレード中に問題 が使用される場合にデータが失われないようにするために、Unified Manager マシンのバックアップを作成しておく必要があります。
- アップグレードを実行するための十分なディスクスペースが必要です。

インストールドライブに、データディレクトリのサイズよりも2.5GBの使用可能なスペースが必要です。十分な空きスペースがないと、アップグレードが中止され、追加に必要なスペース量がエラーメッセージに表示されます。

このタスクについて

アップグレードプロセスの実行中は、Unified Manager を使用できなくなります。実行中の処理がある場合は、Unified Manager をアップグレードする前に完了しておいてください

Unified Manager を OnCommand Workflow Automation のインスタンスとペアにして使用している環境では、両方の製品のソフトウェアで新しいバージョンを利用できる場合、2つの製品間の接続を解除してから各製品をアップグレードし、アップグレードの実行後に Workflow Automation の接続を新たにセットアップする必要があります。いずれかの製品のみをアップグレードする場合は、アップグレード後に Workflow Automation にログインし、Unified Manager からデータを取得していることを確認します。

手順

1. NetApp Support Site にログインし、Windowsプラットフォーム向けのUnified Managerのダウンロードページに移動します。

"ネットアップのダウンロード：ソフトウェア"

2. Unified Manager WindowsインストールファイルをWindowsシステムのターゲットディレクトリにダウンロードします。
3. Unified Managerでハイアベイラビリティを構成している場合は、Microsoft Cluster Serverを使用して1つ目のノードのUnified Managerサービスをすべて停止してから、を使用してMySQLサービスを開始します services.msc。
4. Unified Managerインストーラの実行ファイルを右クリックして実行します (.exe) 管理者としてファイルを作成します。

Unified Manager から次のメッセージが表示されます。

```
This setup will perform an upgrade of 'OnCommand Unified Manager'. Do you want to continue?
```

5. [はい]をクリックし、[次へ]をクリックします。
6. インストール時に設定したMySQLのrootパスワードを入力し、*次へ*をクリックします。
7. ハイアベイラビリティ構成の場合は、アップグレードの完了後に、フェイルオーバークラスタマネージャを使用してすべてのUnified Managerサービスを開始し、残りの作業を実行します。
8. コマンドプロンプトでを実行します ha_setup.pl フェイルオーバークラスタの新しいサービスと共有の場所にあるファイルを設定するスクリプト。

```
C:\Program Files\NetApp\ocum\bin> perl .\ha_setup.pl --upgrade --first -t mscs -g kjaggrp -i "New IP Address1" -n scs8003.englab.company.com -k "Cluster Disk 2" -f E:\ -u user -p userpass
```

9. Microsoft Cluster Serverを使用して、1つ目のノードのすべてのUnified Managerサービス (ocie、

ocieau、およびMySQL) を停止します。

10. から2つ目のノードでMySQLサービスを開始します `services.msc`。
11. サービスグループをハイアベイラビリティ構成の2つ目のノードに切り替えます。
12. 2つ目のノードでUnified Managerをアップグレードします。
13. コマンドプロンプトで、`>`と入力します `Y` 続行する場合は`Y`、中止する場合は他の文字を入力します。

Unified Managerサービスのアップグレードと再起動のプロセスが完了するまでに数分かかることがあります。

14. Microsoft Cluster Serverを使用して、両方のノードですべてのUnified Managerサービスを開始します。
15. コマンドプロンプトでを実行します `ha_setup.pl` を使用してスクリプトを作成します `--upgrade` オプション

```
perl ha_setup.pl --upgrade --join -t mscs -f E:\
```

16. Unified Manager Web UI にログインし、バージョン番号を確認します。

完了後



Unified Managerのサイレントアップグレードを行う場合は、次のコマンドを実行します。

```
OnCommandUnifiedManager-9.5.exe /s /v"MYSQL_PASSWORD=netapp21! /qn /l*v C:\install.log
```

Windowsでのサードパーティ製品のアップグレード

JRE、MySQLなどのサードパーティ製品がWindowsシステムにインストールされている場合は、Unified Managerでそれらの製品をアップグレードできます。

これらのサードパーティ製品を開発する企業は、定期的にセキュリティの脆弱性を報告しています。このソフトウェアの新しいバージョンには、独自のスケジュールでアップグレードできます。

WindowsでのJREのアップグレード

Unified ManagerがインストールされているWindowsサーバでJava Runtime Environment (JRE) を新しいバージョンにアップグレードすることで、セキュリティの脆弱性に対する修正を入手できます。

作業を開始する前に

Unified Manager がインストールされている Windows システムに対する admin 権限が必要です。

手順

1. Unified Manager ホストマシンに admin ユーザとしてログインします。
2. JDKのWebサイトから、該当するバージョンのJava (64ビット) をターゲットシステムにダウンロードします。

たとえば、をダウンロードします openjdk-11_windows-x64_bin.zip 移動元
<http://jdk.java.net/11/>。

3. Windows サービスコンソールを使用して、次の Unified Manager サービスを停止します。
 - NetApp OCIE Acquisition Unit (Ocie-au)
 - NetApp OnCommand アプリケーションサーバ (Oncommandsvc)
4. を展開します zip ファイル。
5. 作成されたからディレクトリとファイルをコピーします jdk ディレクトリ (例: jdk-11.0.1 Javaがインストールされている場所に移動します。例 C:\Program Files\NetApp\JDK\
6. Windows サービスコンソールを使用して Unified Manager サービスを開始します。
 - NetApp OnCommand アプリケーションサーバ (Oncommandsvc)
 - NetApp OCIE Acquisition Unit (Ocie-au)

WindowsでMySQLをアップグレードしています

Unified ManagerがインストールされているWindowsサーバでMySQLを新しいバージョンにアップグレードすることで、セキュリティの脆弱性に対する修正を入手できます。

作業を開始する前に

- Unified Manager がインストールされている Windows システムに対する admin 権限が必要です。
- MySQLのrootユーザのパスワードが必要です。

手順

1. Unified Manager ホストマシンに admin ユーザとしてログインします。
2. 該当するバージョンの MySQL をターゲットシステムにダウンロードします。
3. Windows サービスコンソールを使用して、次の Unified Manager サービスを停止します。
 - NetApp OCIE Acquisition Unit (Ocie-au)
 - NetApp OnCommand アプリケーションサーバ (Oncommandsvc)
 - MySQL
4. をクリックします .msi パッケージでMySQLのアップグレードを呼び出し、画面の指示に従ってアップグレードを完了します。
5. Windows サービスコンソールを使用して Unified Manager サービスを開始します。
 - MySQL
 - NetApp OnCommand アプリケーションサーバ (Oncommandsvc)
 - NetApp OCIE Acquisition Unit (Ocie-au)

WindowsでのUnified Managerの再起動

設定を変更した場合、Unified Manager の再起動が必要になることがあります。

作業を開始する前に

Windows の管理者権限が必要です。

手順

1. デフォルトのローカル管理者アカウントで Windows にログインします。
2. Unified Manager のサービスを停止します。

方法	サービスを停止する順序
コマンドライン	a. <code>sc stop ocie-au</code> b. <code>sc stop Oncommandsvc</code>
Microsoft Service Manager の略	a. NetApp OCIE Acquisition Unit (Ocie-au) b. NetApp OnCommand アプリケーションサーバ (Oncommandsvc)

ハイアベイラビリティ構成の場合は、Microsoftサービスマネージャまたはコマンドラインを使用してUnified Managerサービスを停止します。

3. Unified Manager のサービスを開始します。

方法	サービスを開始する順序
コマンドライン	a. <code>sc start Oncommandsvc</code> b. <code>sc start ocie-au</code>
Microsoft Service Manager の略	a. NetApp OnCommand アプリケーションサーバ (Oncommandsvc) b. NetApp OCIE Acquisition Unit (Ocie-au)

ハイアベイラビリティ構成の場合は、Microsoftサービスマネージャまたはコマンドラインを使用してUnified Managerサービスを開始します。

WindowsからUnified Managerをアンインストールします

WindowsからUnified Managerをアンインストールするには、プログラムと機能ウィザードを使用するか、コマンドラインインターフェイスから無人アンインストールを実行します。

作業を開始する前に

- Windows の管理者権限が必要です。

- ソフトウェアをアンインストールする前に、 Unified Manager サーバからすべてのクラスタ（データソース）を削除しておく必要があります。
- Unified ManagerサーバからGraphiteなどの外部データプロバイダへのアクティブな接続を確立できません。

接続されている場合は、 Unified Managerメンテナンスコンソールを使用して接続を削除する必要があります。

手順

1. ハイアベイラビリティ構成の場合は、 Unified Managerをアンインストールする前に、両方のノードからHAサービスグループのリソースを削除してHAサービスグループを削除します。
2. 次のいずれかを実行して Unified Manager をアンインストールします。

Unified Manager をアンインストールする方法	作業
プログラムと機能ウィザード	<ol style="list-style-type: none"> a. [コントロールパネル > プログラムと機能 *] に移動します。 b. OnCommand Unified Managerを選択し、 *アンインストール*をクリックします。
コマンドライン	<ol style="list-style-type: none"> a. 管理者権限でWindowsのコマンドラインにログインします。 b. OnCommand Unified Managerディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。 <pre>msiexec /x {A78760DB-7EC0-4305-97DB-E4A89CDDFF4E1} /qn /! *v %systemdrive%\UmUnInstall.log</pre>

サーバでユーザアカウント制御（ UAC ）が有効になっていて、ドメインユーザとしてログインしている場合は、コマンドラインによるアンインストールを実行する必要があります。

Unified Manager がシステムからアンインストールされます。

3. Unified Manager のアンインストール時に削除されない次のサードパーティパッケージとデータをアンインストールします。
 - サードパーティパッケージ： JRE 、 MySQL 、 Microsoft Visual C+2015 再頒布可能パッケージ、 7zip
 - Unified Manager によって生成された MySQL のアプリケーションデータ
 - アプリケーションログとアプリケーションデータディレクトリの内容

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。